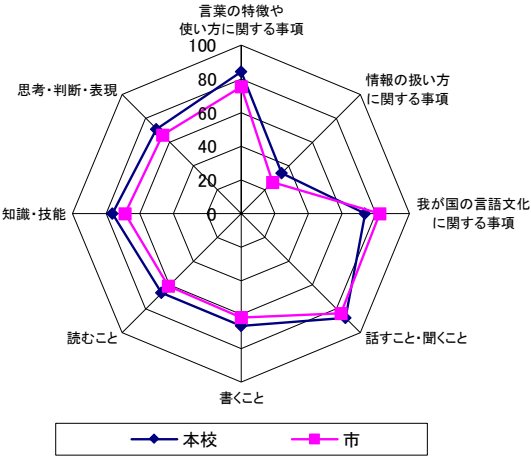


宇都宮市立清原北小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	84.2	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	34.2	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	73.7	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	87.7	83.9	84.2
	書くこと	66.7	61.7	64.5
観点別	読むこと	66.7	60.9	61.0
	知識・技能	76.3	68.8	70.3
	思考・判断・表現	70.9	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

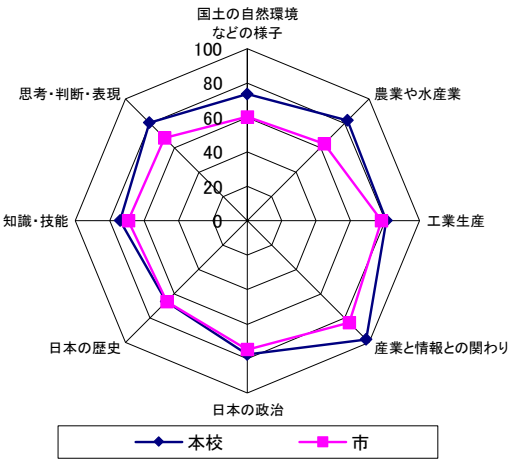
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均を8.9ポイント上回っている。 ○6年生の漢字の読みと5年生の漢字の書きの正答率は、市の平均より高い。 ○熟語の成り立ちや敬語の使い方、文と文との接続の関係を理解する問題のいずれも市の平均より高い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の学習については、今後も繰り返し練習するだけでなく、熟語を調べたり、漢字を活用したりする学習を行い、漢字を日常生活で使えるようにしていく。 ・言葉の学習については、ミニテストやステップアップシート等を実施し、朝の学習の時間や家庭学習などで継続して取り組ませていく。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は、市の平均を7.7ポイント上回っている。 ○情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題では、正答率が31.6%と低かったが、市の平均を14.4ポイント上回った。	・資料の内容を読み取って必要な情報を収集し、文章に適切に書き表す活動は、社会科や総合的な学習の時間など、他教科でも取り組み、引き続き定着を図る。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は、市の平均を8.7ポイント下回っている。 ●和語、漢語、外来語について理解している児童は、73.7%と市の平均を下回った。	・和語、漢語、外来語の由来を再度確認し、宿題や朝の活動で問題に取り組んだり、普段の生活の中で語句を意識したりすることにより、興味・関心を高められるようにしていく。また、漢字の読みにおける「音読み」と「訓読み」について意識させ、和語と漢語の区別ができるように指導していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を3.8ポイント上回っている。 ○インタビューの内容を聞き取る問題では、建築士のやりがいについて内容を正しく捉えている児童が多く、正答率は市の平均より10.9ポイント高かった。 ●意図に応じて、話し方の工夫を答える問題では、市の平均より4.8ポイント低かった。	・聞く力・話す力の育成を図り、話し手の意図を考えながら聞く力や、自分の立場を明確にして話す力を身に付けさせる。特に自分の伝えたいことが相手に伝わるようにするために、どんな工夫があるのか、具体例を挙げて考えさせ、話し方を工夫したスピーチを行えるようにする。
書くこと	平均正答率は、市の平均を5.0ポイント上回っている。 ○予想される反論と、それに対する自分の考えを書くことに関しては、正答率が市の平均より19.8ポイント高かった。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことができる児童の割合は、市の平均より3.6ポイント低かった。	・定められた条件の中で文章を書く学習活動を設定し、自分の立場や考えを明らかにして文章を書けるようにする。 ・タブレット機器を活用し、互いの文章を読み合って書き方の参考にしたり、自分の文章を推敲したりする。
読むこと	平均正答率は、市の平均を5.8ポイント上回っている。 ○説明文においては、叙述を基に文章を捉える問題の正答率が、市の平均より9.2ポイント上回った。 ●物語文においては、登場人物の様子について、描写を基に捉える問題では、正答率が市の平均より5.6ポイント下回った。	・物語文では、授業において情景描写と人物の心情の関連に気付かせたり、工夫して音読したりするなどして、より深い心情表現を理解させる。 ・説明文では、文章の構成や論の進め方を正しく捉えることができるような活動に取り組ませ、筆者の意図を正確に捉えられるようにする。

宇都宮市立清原北小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	73.7	60.5	65.8
	農業や水産業	82.5	63.3	66.0
	工業生産	80.7	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	97.4	83.8	76.6
	日本の政治	77.6	74.9	74.1
	日本の歴史	66.4	66.3	68.3
観点別	知識・技能	74.0	69.3	71.4
	思考・判断・表現	80.5	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

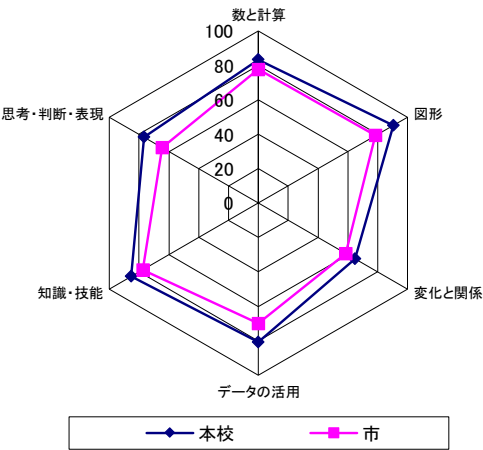
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均を13.2ポイント上回っている。 ○季節風についての理解をもとに、太平洋側の気候の特色を雨温図から読み取る問題では、市より23.5ポイント上回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・調べるねらいやポイントを明確にして資料から分かることや気付くことを挙げるなど、必要な情報の読み取り方を引き続き指導していきたい。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均を19.2ポイント上回っている。 ○日本の主な食料の自給率について理解している児童は、市より32.1ポイント上回った。	・授業中にグラフなどの資料を活用し、日本の抱える問題について視覚的に理解できるよう引き続き指導していきたい。
工業生産	平均正答率は、市の平均を2.8ポイント上回っている。 ○日本の主な輸出品・輸入品について理解している児童は、市より11.9ポイント上回った。 ●自動車の部品を再利用する目的について理解している児童は市より2.7ポイント下回った。	・事実とそれに付随する理由や目的などを明確にして指導するとともに、教科の指導の中でも環境教育等について適宜触れながら意識付けを図りたい。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均を13.6ポイント上回っている。 ○産業における情報活用の現状について考える問題では、正答率が100%で市より25.2ポイント上回った。 ○情報の発信と受信の注意点について考える問題では、正答率が94.7%で市の平均を1.8ポイント上回っていた。	・インターネット利用の注意点については、道徳や学活など他の授業との関連を図りながら、一人一人が自分事として捉えられるよう指導していきたい。
日本の政治	平均正答率は、市の平均を2.7ポイント上回っている。 ○議会政治について、資料をもとに考え、表現する問題では、市より10.2ポイント上回った。 ●基本的人権の尊重の基本的な考え方について理解している児童は、市より2.4ポイント下回った。	・日本国憲法の三つの原則について再度確認するとともに、日本国憲法に書かれている内容を権利と義務に分類し、生活との関連を考えられるよう指導していきたい。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均とほぼ同じであった。 ○元との戦いについての理解をもとに、防塁が築かれた場所を正しく選んでいる児童は、市より14.4ポイント上回った。 ●豊臣秀吉の業績について理解している児童は、市より15.0ポイント下回った。	・歴史上の主な人物の政策等について再度整理するとともに、AIDリルや学習プリント等を活用し、定着を図る学習を繰り返す行う。

宇都宮市立清原北小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	83.3	77.7	78.6
	図形	90.5	78.4	74.4
	変化と関係	64.9	58.7	53.0
	データの活用	80.7	69.9	57.2
観点別	知識・技能	85.4	77.5	74.0
	思考・判断・表現	76.7	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

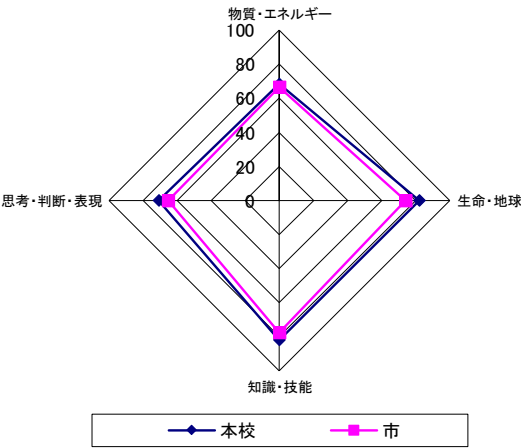
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均を5.6ポイント上回っている。 ○小数のかけ算・わり算や、図から立式する問題では、いずれも市の正答率の平均を上回った。 ●真分数×真分数の計算問題と真分数÷真分数の計算問題で、いずれも市の平均を下回った。また、2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題では、市の正答率を13.6ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・二つの数量の関係をx・yなどの文字を用いて式に表したり、文字に数を当てはめさせて調べたりする活動を通して、文字式を活用していける力を養っていく。 ・真分数のかけ算、わり算のやり方や約分のやり方を再確認し、練習問題で慣れさせ、身に付けさせる。
図形	平均正答率は、市の平均を12.1ポイント上回っている。 ○図形は、すべての問題において市の正答率の平均を上回っている。特に、2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求める問題では、市の正答率を24.7ポイント上回っている。	・引き続き対称な図形では、作図を通し線対称と点対称のそれぞれの特徴を理解させる。 ・合同な三角形の作図では、基礎的な描き方や作図に必要な条件を確認してから描く習慣を付けさせる。
変化と関係	平均正答率は、市の平均を6.2ポイント上回っている。 ○変化と関係は、すべての問題において市の正答率の平均を上回っている。特に、百分率について理解し、割引後の値段を求める式を選ぶ問題では、市の正答率を12.0ポイント上回っている。	・人口密度の求め方や、分速を秒速や時速に直す方法等を復習し、どのように立式すればいいかを理解させる。 ・目的に応じて、速さや人口密度などを考察する活動や割合を用いて比べる場面等を取り入れていく。
データの活用	平均正答率は、市の平均を10.8ポイント上回っている。 ○ドットプロットから、最頻値と中央値を読み取る問題では、市の正答率を23.8ポイント上回っている。 ●円グラフから割合を読み取る問題では、市の正答率を0.6ポイント下回っている。	・円グラフの読み方を確認し、正しく読み取ることができるよう指導する。 ・ドットプロットやヒストグラムの読み取りを深めるために、正しいグラフの読み方や活用の仕方をおさえる。

宇都宮市立清原北小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	68.4	66.5	66.3
	生命・地球	82.1	74.0	72.6
観点別	知識・技能	82.0	77.6	78.2
	思考・判断・表現	70.9	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均を1.9ポイント上回っている。 ○メスシリンダーの目盛りの正しい読み方や、正しい過の操作の仕方を問う問題の正答率は、市の平均より9.3ポイント上回った。 ●実験操作の誤りを説明する問題や電磁石の性質をもとに、おもちゃの車が走るように改善する方法を記述する問題の正答率は、市の平均より下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も、実験や観察に使う用語や器具の操作方法などの知識・理解の定着を図る。 ・単元においての課題のねらいや解決方法を正しく捉えさせ、予想や仮説を立ててから実験・観察等に臨み、結果を考察する活動や互いの考えを伝え合う活動を取り入れ、思考力や表現力を高めていく。
生命・地球	平均正答率は、市の平均を8.1ポイント上回っている。 ○「天気と変化」や「月と太陽」の内容については、すべての問題において市の平均を上回った。 ●動物のからだのつくりとはたらきの「消化」についての理解を問う問題と、植物のくきを縦に切ったときの断面のようすを問う問題の正答率は、市の平均を下回った。	・知識及び理解を定着させるため、身の回りの自然現象に目を向けさせ、その仕組みを図や言葉でまとめるなど、新しい知識への関心を高める。また、実際の観察・実験が困難な単元では、引き続き模型やICT等を活用し、より分かりやすい授業展開に努める。 ・思考力・判断力・表現力を向上させるため、実験や観察の目的とゴールを明確にし、児童の予想や結果、考察がその目的に沿っているかを確認したり、互いの考えを発表する場を多く設けたりする。

宇都宮市立清原北小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童一人一人の達成感や成就感を高める授業づくり	・学習意欲を高める導入の工夫や、めあての提示と見通し、学習の振り返りを徹底した授業づくり ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教材や授業展開の工夫 ・デジタル教材やタブレット等のICT機器の効果的な活用	アンケートにおいて、「学習しているいろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい。」の肯定回答が高い学年が多かった。一方で「学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」の肯定回答は低かったり、教科によって苦手意識が見られたりする。高学年では、「調べたことをパソコンを使ってまとめることができる。」「相手に自分の考えや調べたことを伝えることができる。」の項目で、肯定回答が市の平均より高かった。しかし、中学年においては、どちらの項目も市の平均より低かった。
家庭学習の充実と習慣化	・記録表を活用した家庭学習の実施 ・学期末や年度末に「清北まとめの学習週間」を設定し、実施 ・自主学習の内容例や参考になるよい実践の紹介	3年生以上のアンケートにおいて、「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」の項目では、6年生は市の平均より肯定割合が高かったが、3・4・5年生は低かった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・基礎・基本の確実な定着を図るための個に応じた指導や児童の興味関心に合った教材作り、学習意欲を高める導入の工夫などに取り組んでいく。
- ・ICT機器の効果的な活用方法の工夫を行う。
- ・自己表現や相互理解・相互交流を促す活動の工夫を行う。
- ・再度自主学習の進め方を確認したり、よい実践を紹介して参考にさせたりするなど、家庭と連携し、学年に応じたよりよい家庭学習の習慣化を図っていく。